

## 第2号議案

令和4年度社会福祉法人聖仁会各事業報告並びに収支決算承認について

### 令和4年度事業報告書

#### 1) 本部

面会において、今年度も特別養護老人ホームと有料老人ホームでは新型コロナウイルス感染症の予防対策として、ご家族の面会制限をおこない、ガラス越しにワイヤレスインターフォンを使用しての面会を行いました。

ケアハウスでは、佐賀県の補助金を使用して購入した陰圧クリーン面会ブースを使っでの面会を実施しました。

職員の身体的負担軽減策として特別養護老人ホームでは、佐賀県のロボット・ICT 補助金を活用し、電動昇降車椅子や移動式リフトを購入し腰痛予防対策を図りました。

入所者の安全確保の面からは、眠りスキャンを導入しバイタルサインのデータ収集を行うことで記録の簡素化とともに転倒防止につなげることができています。

また、施設内の Wi-Fi 環境を整備し、無線 LUN とインカムを使用することでいち早く職員同士がいつでもつながっている環境をつくり情報共有ができるようになりました。

職員採用では、新卒者3名、中途採用1名の計4名の職員確保ができ若干余裕のある勤務を組むことができました。

介護職員確保は、今後も日本人採用は難しく引き続き外国人の活用を検討していく必要性を感じています。今年度は、ネパール人留学生を1名受け入れています。

コロナ感染症予防対策は実施してきましたが、年度末には利用者の風邪がまん延し、感染の広がりを抑えるため食事の場所を分けました。しかし、食事介助の手が足りなくなり、現場以外の職員へ応援を依頼し乗り切る事ができました。

デイサービスセンターは、有料老人ホームの稼働率低下により利用者数が減少し収益が下がりました。

人材育成面については、コロナウイルス感染予防のため外部研修ができない状況が続き昨年度同様にWEB(インターネットを使用した閲覧システム)研修を継続し、ご利用者に安心安全で、信頼される施設となれるよう職員の質の向上を図るため、全職員に映像での講義研修の機会を数多く設けました。

## 令和4年度 主な事業実施状況報告

運営面	理事会3回(6月1日、2月22日(書面)、3月28日) 評議員会1回(6月22日) 監事監査 1回 (5月17日)
人材確保	4名
主な行事	クリスマス会 誕生会 新年会 クラブ活動 お茶会
地域交流	コロナウィルス感染予防のため未実施
地域貢献	車椅子対応軽自動車及び車椅子無料貸出し、介護予防ふれあいデイサービス 送迎支援、大町町地域ケアネットワーク会議参加、佐賀県地域包括ケア推進会 議参加、大町町社協理事及び評議員、大町町地域包括支援センター運営委員、 大町町入所判定委員、介護認定審査委員、佐賀県老人福祉施設協議会役員、 佐賀県介護保険事業連合会理事、杵藤地区広域市町村組合地域密着型サービ ス運営委員、佐賀女子短期大学実習受け入れ 牛津高校実習受け入れ
広 報	デイサービス月例便り発行
防火対策	昼間避難訓練 コロナ禍実施できていません。 夜間避難訓練実施 コロナ禍実施できていません。 非常放送設備保守 電気設備点検(月次点検実施)
環境対策	合併処理施設放流水透視度点検(月2回) 害虫駆除 年2回 浄化槽検査及び清掃実施 園内草刈清掃実施 受水槽清掃 浄化槽法定検査(特養1回)(有料1回)
衛生対策	飲料水の水質検査実施(1回) レジオネラ菌の定期検査(2回) ヘアーキャッチャーの洗浄殺菌消毒実施
面 会	家族の方へ各行事の案内と面会依頼
預り金管理	月毎に確認管理を行い4半期毎に実績を報告
人材育成	内部研修 (感染症対策、虐待防止、事故防止、接遇、新人研修) 外部研修(延べ206名参加) <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援専門員更新研修 1名(9日間) 1名</li> <li>・新任職員研修 3名</li> <li>・ハイブリッド研修 1名</li> <li>・居宅介護支援事業所におけるBCP対策研修 1名</li> <li>・佐賀県通所介護部会研修 12名</li> <li>・外国人受入れ研修 2名</li> <li>・省エネ補助金活用研修 1名</li> <li>・九州老施協研究大会 50名</li> <li>・家族支援のケアマネジメント研修 2名</li> <li>・佐賀県経営協研修 1名</li> </ul>

・介護保険施設におけるBCP対策研修	2名
・九社連老施協特養部会研修	35名
・人権同和研修	1名
・大町町養介護施設等従事者向け高齢者虐待に関する研修	5名
・九社連通所介護部会研修	12名
・佐賀県介護支援専門員専門課程研修	1名
・佐賀県初任者向け高齢者虐待防止研修会	2名
・ケアハウス部会相談員介護員視察研修	1名
・社会福祉法人会計と社会保険制度の改正研修	2名
・佐賀県リーダー向け高齢者虐待防止研修会	3名
・口腔ケアから排泄ケアの新たな方法研修	2名
・佐賀県養介護施設等施設管理者向け向け高齢者虐待に関する研修	1名
・介護福祉士実習指導者研修会	1名
・社会福祉法人会計ソフトの有効活用と処遇改善加算及び人事制度	3名
・処遇改善加算及び人事制度	1名
・防火研修会	1名
・ケアハウス栄養士研修会	1名
・九社連施設長研修	1名
・介護支援専門員在宅ターミナル研修	2名
・介護員の喀痰吸引等実施のための研修指導者養成研修	1名
・認知症多職種協同研修	7名
・介護認定審査員現任研修	2名
・特定給食施設栄養管理研修	1名
・在宅介護実態調査説明会	1名
・社会福祉法人・施設会計実務決算研修	3名
・佐賀県介護支援専門員杵藤地区支部研修	2名
・九社連ケアハウス部会研修	1名
・佐賀県老施協研究発表	30名
・感染対策勉強会	1名
・社会福祉法人役員研修	1名
・介護事業戦略研修	1名
・介護予防、自立支援重度化防止研修	1名
・主任介護支援専門員フォローアップ研修	1名
・リフトリーダー養成研修	2名

WEB研修（延64名が研修に参加しました）

NO	研修名	参加	NO	研修名	参加
1	高齢者の転倒予防	1名	18	どんな環境でも活用できる介護技術	1名
2	身体拘束予防の具体策	1名	19	心を軽くするアンガーマネジメント	2名
3	体温の異常と熱中症	23名	20	集中して仕事に取り組むためのメンタルトレーニング	2名
4	リーダーの役割	1名	21	異常の早期発見のための観察の視点	1名
5	職員の健康管理	1名	22	緊急時対応研修	1名
6	記録の演習と点検	1名	23	報告連絡相談の意味と重要性 指示の仕方・受け方 報告の仕方・受け方	1名
7	記録の技術	1名	24	力と意欲を引き出す介助術	1名
8	褥瘡予防のための状況別 ポジショニング	1名	25	ターミナルケア基礎研修	1名
9	看取り期及び死後の グリーフケア基礎研修	2名	26	感染症の予防及び発生時の 対応基礎研修	1名
10	気疲れしない関係を創る トレーニング	1名	27	事故予防と緊急時対応研修	1名
11	介護従事者の接遇	2名	28	BCP(事業継続計画)及び 災害時対応研修	1名
12	認知症の理解・認知症ケアの基本	1名	29	介護施設・居住施設の効果的な 虐待防止の具体策	1名
13	医療連携に必要な知識と技術	2名	30	介護リーダーに必要な業務改善の ための4つの力	1名
14	BPSD(行動心理症状)対応研修	2名	31	リフトリーダー養成研修	2名
15	認知症研修アセスメント編	1名	32	高齢者に対する虐待防止について	1名
16	養介護施設等従事者向け高齢者 虐待に関する研修会	2名	33	高齢者虐待防止研修	1名
17	介護報酬改定を受けてLIFE (科学的介護)の内容について	1名	34	認知症への理解とBPSDへの対応	1名

## 2) 特別養護老人ホームすみれ園

### 重点実施項目についての状況・結果報告

#### 1. 日常生活の援助

現在、特養の新規入所対象は、原則要介護3以上の高齢者に限定され、自宅での生活が困難な中重度の要介護者を支える施設としての役割を担っています。

一方で、町内は住宅型有料老人ホーム等高齢者の居住施設、介護施設が増加し、以前に比べ軽度の状態から介護施設を利用し、中度重度となっても、そのまま馴れたところを利用されるケースが増え入所の待機者やショートステイの利用者数がここ数年減少しています。入所申込者募集のため、近隣の居宅介護支援事業所、医療機関の地域連携室等に空床の状況を随時お知らせしておりますが、反応が乏しいのが現状です。医療機関からのご紹介があるも、当園の医療体制では、対応が困難なケースもあり、入所者様の受診介助も平日は、ほぼ毎日あるため、今後は、看護師の人員を増やす、それに伴い、看護師の勤務体制を見直すなどの検討が必要な状況も出てきています。

1年間の入所者は21名、退所者19名となり、前年度より入所者9名増加、退所者が2名増加、入退所の入れ替わりが増大しました。

稼働率で見ますと令和4年度末で、95.2%の状態、令和3年度末で89.5%でしたので、稼働率は、回復傾向にあります。

新規入所者は病院・療養病床からの入所が5名、特養のロングショートから2名、併設の有料老人ホームから4名、他福祉施設から8名、自宅からの入所が2名。令和5年3月末現在で、入所者の方の要介護度は、要介護3が45.8%、要介護4、5が47.5%でした。要介護1、2の特例入所者は、4名と減少。昨年と比べると入所者は、重度化傾向にあります。令和5年3月末時点での要介護度平均値は、3.5となっています。

例えば、胃瘻造設者が4名と増加傾向で、入所者の重度化の要因と考えられます。

平均年齢は、88.7歳(前年度89.0歳)平均在籍月数は、入所者の入れ替わりが増大したため3年6か月と前年度(4年5か月)より短くなっています。

(短期入所者数は別紙記載報告)…稼働率は、70.1%。昨年の利用率85.8%より減少となっております。平均年齢86.3歳、要介護度平均値は、1.9となっております。

#### 2. 行事

行事を通して入居者へ適度な精神的刺激を受けていただくように努めました。

誕生会や季節の行事等の月間行事の取り組み、昨年度実施できなかったバスハイクは年2回実施することができました。また、天候が良い日に園庭への散歩を行うことで気分転換を図りました。お楽しみ会やハロウィンパーティーを開催し、職員の出物やゲームなど楽しい時間を過ごしていただくよう立案、実施しました。

多目的ホールで入居者がゆったりとした時間を過ごされ、食事前の口の体操や午後からの運動の取り組み、レクリエーション等も出来る範囲で取り組むことができました。

(各行事については別紙に記載報告)

### 3. 地域交流と社会参加の場づくり

長引くコロナ感染拡大の影響で運動会、敬老会、町内外サークル慰問等により地域交流社会参加の場づくりが出来ておりません。

### 4. 広報活動

広報活動やご家族との双方向のコミュニケーションの活性化のため、今後、広報活動としてホームページ等インターネット、LINE、Facebook等のSNSの活用、また、Zoomアプリを活用し、遠方からのご家族との面会等も検討しております。また、窓越しの面会を実施することにより、入所者様とご家族様のコミュニケーションをサポートし、家族間の交流が継続できるよう心掛けています。

担当介護員からの賀状等を送付しました。

### 5. 防災活動

避難訓練(コロナ禍のため、昼間の避難訓練が、実施できておりません。)

### 6. 感染症対策

入居者職員の感染予防対策として、年に1回の胸部レントゲン撮影、インフルエンザの予防接種、コロナワクチン接種3回を行い日々の手洗いや嗽の励行、入居者の口腔ケアに努めました。

また、感染症予防対策委員会では佐賀県からのクラスター発生時の応援体制、ガウンテクニクについての動画を視聴し常に危機感をもち基本的な感染対策を行っていく事の大切さを学びました。

手洗いについて十分行われているか、保健所より手洗いチェッカーを借用し、各自洗い残しがないかの確認を行いました。

食事前の手拭き、消毒の徹底や食後に新しいお絞りを提供し清潔保持にも努めました。

インフルエンザ感染予防、新型コロナウイルス感染症の予防の為、マスク着用、職員通用口の自動体温測定計の設置、手指消毒を行いました。

清潔と不潔の混合について手順や改善策をマニュアル化していきました。

### 7. 事故防止対策

週ごとに事故防止委員で発生項目を確認し、3ヶ月ごとにヒヤリハット・事故報告書の集計を行い、項目と対策について周知を行いました。

ヒヤリハットとしては立ち上がり・独歩・自力移乗等が多く上がっていました。場所としてはホール・居室・食堂など日中過ごされる事が多い場所での発生が多く見られました。時間としては離床されている時間が多かったです。

事故としては、転倒・ずり落ち・皮膚剥離が多く発生しており、その他の項目としては誤食や異食・配膳間違いなどが上がっていました。転倒・ずり落ちについては日中・夜間共に発生が見られていました。転倒などについては以前より見守りの徹底や足元センサー、離床センサー、衝撃吸収マットなどを用いて事故の防止に努めてきましたが、日中の手薄な時間や夜間の少ない人員で対応している際などは、他の入居者の対応やコールの重なりなどで対応が遅れてしまい、事故に繋がってしまうという事が見られていたので、眠りスキャンやインカムなどの機器を導入し、今まで以上に行動の早期把握と職員間での情報伝達を素早く

行い、事故の予防に努めました。発生場所としては居室・ホール・トイレ・食堂等ヒヤリハット同様に過ごされている場所で発生していました。時間帯としては日中に多く発生していました。

事故発生に関しては完全になくすことは困難であると思われます。また、人員の不足など見守りの眼が届きにくくなっている事も考えられさらに介助が必要な方が増加されている事もあると思われます。しかし、適切な機器の使用とヒヤリハット、事故報告書等を参照し、日常のリスクの情報共有を行う事によって事故を予防していく事が重要であると思われます。今後も事故防止委員会を中心として情報の発信と予防対策を行っていき、予防と再発の防止に向けて取り組んでいきます。

#### 8. 高齢者虐待防止対策

コロナ禍の為施設外の研修ができず年2回、施設内Web研修で虐待についての定義、虐待のもとになる不適切なケアについての理解、不適切なケアが起こりえる背景及びストレスについての理解を深めました。

また、不適切なケアについて学んだことが今どのような変化に繋がっているかアンケートを実施し、虐待に繋がらないように早期に検討を行いました。

#### 9. 夢かなえについて

今年度はコロナ禍の為全面的に夢叶えの実施ができませんでした。

#### 10. 家族との交流について

入所時には積極的な面会をお願いし、遠方在住のご家族に対しては広報誌等の送付により生活状況をお伝えしてきました。しかし、コロナ禍の為ご家族様との直接的な交流ができず、外出も制限があって交流の場を設けることができませんでしたが、最低限の交流を持つため、コロナの感染者の減少により窓越しの面会等で最低限の交流を図ることができました。また、施設介護計画書を随時ご家族様に郵送し、現在の入居者様の状況を把握していただくよう努めることができました。

#### 11. その他

令和4年度 実習、慰問、ボランティア、受け入れ

8月 佐賀女子短期大学2名

9月 佐賀女子短期大学2名

3月 牛津高等学校 2名

(コロナ禍のため、慰問、ボランティアの受け入れは、中止せざるを得ませんでした。)

特別養護老人ホームすみれ園(ショートステイ利用実績)

月	利用ベッド数	ベッド利用率	1日利用平均
4	205 床	85.4%	6.8 床
5	130 床	52.4%	4.2 床
6	127 床	53.0%	4.2 床
7	120 床	48.4%	3.9 床
8	153 床	61.7%	4.9 床
9	159 床	66.3%	5.3 床
10	197 床	79.4%	6.4 床
11	186 床	77.5%	6.2 床
12	196 床	79.0%	6.3 床
1	204 床	82.3%	6.6 床
2	188 床	83.9%	6.7 床
3	186 床	75.0%	6.0 床
平均	171 床	70.1%	5.6 床

和4年度 夢叶え実施状況

\*夢叶えを希望される方の大半は、外出(買い物、食事、自宅へ帰りたい)を要望されていましたが、コロナ禍の為希望にそえず実施することができませんでした。

## 令和4年度 年間行事

4月13日	喫茶(ババロア)	10月29日	ハロウィンパーティー
4月27日	誕生会(誕生者3名)	11月21日	バスハイク(紅葉見学10名)
5月11日	母の日(52名)手作りカード	11月21日	バスハイク(紅葉見学10名)
5月18日	喫茶(生どら焼き)	11月27日	誕生会(誕生者5名)
5月25日	誕生会(誕生者7名)	12月18日	誕生会(誕生者3名)
6月18日	喫茶(女性プリン・男性ナンアル・つまみ)	12月24日	クリスマス会
6月18日	父の日(8名)手作りカード	12月28日	門松づくり
6月22日	喫茶(水ようかん)	1月1日	お屠蘇会
6月27日	バスハイク(歌垣公園・大町町めぐり13名)	1月15日	鏡開き
6月27日	バスハイク(歌垣公園・大町町めぐり13名)	1月28日	誕生会(誕生者5名)
6月29日	誕生会(誕生者5名)	2月4日	節分
7月 6日	七夕祭り	2月14日	バレンタインデー
7月31日	誕生会(誕生者3名)	2月26日	誕生会(誕生者8名)
8月21日	誕生会(誕生者4名)	3月4日	雛祭り
9月 5日	喫茶(蒸しパン)	3月25日	誕生会(誕生者8名)
9月19日	すみれ園敬老会		
9月25日	誕生会(誕生者7名)		
10月23日	誕生会(誕生者3名)		

## すみれ園（医務）

令和4年度も前年度同様、利用者の感染症罹患者はありませんでした。しかし、入院者は累計 15 件(15名)で、うち4名は病院での継続治療が必要となられ退所となっています。

令和3年度から、当園での新型コロナウイルスワクチン接種も始まり、令和5年度も引き続き第6回目以降の新型コロナウイルスワクチン接種が予定されています。引き続き、利用者様の健康管理に努めていきたいと思っております。

・状態に応じたバイタル測定	
・健康診断	
ホームと長期ショート利用者の結核健診	年 1 回
ホームと長期利用者の血液による内科検診	年 1 回
体重測定	月 1 回
全職員の健康診断	夜勤者
	夜勤者以外
	年 2 回
	年 1 回
・リハビリ 音楽 生活リハビリの実施	毎日
・予防	
1 インフルエンザ	
予防接種の実施(ホーム入所者・ショート利用者・職員)	0 名
利用者のインフルエンザ罹患者数	ホーム利用者
	ショート利用者
	0 名
	0 名
職員の罹患による出勤停止者数	0 名
職員のご家族(同居)が罹患し、予防薬で出勤	
2 嘔吐下痢症	
施設利用者による嘔吐下痢罹患者数	0 名
職員の罹患による出勤停止者数	0 名
職員の家族による出勤停止者数	0 名
3 その他の感染症による出勤停止者数	
施設利用者のコロナ感染症罹患者数	0 名
職員のコロナ感染症濃厚接触者としての出勤停止者数	6 名
職員のコロナ感染症陽性者としての出勤停止者数	5 名
4 職員の麻疹ワクチン接種	対象者なし
5 利用者の肺炎球菌ワクチン接種者数	8 名

・入院者数

内科(10件) 整形外科 (2件) 脳神経外科 (2件) 精神科(1名) 計15件

4年度の死亡者数

ホーム利用者 ( 14名)

ショート利用者 ( 1名)

\*当園での看取り者数 ( 15名)

入院治療希望、継続治療でのホーム退所者 ( 4名)

・施設内研修

褥瘡予防研修会 年3回

褥瘡予防対策委員会 年3回

感染症予防対策委員会 年4回

衛生管理委員会全体研修 年2回

誤嚥・看護師不在時・夜間緊急時の研修 年2回

ターミナル研修 年1回

ケア連携研修 年1回

・施設外研修(WEB 研修) 10件

## すみれ園（給食管理）

### 業務報告

#### 1. 食事提供について

R4年度も日清医療食品(株)(委託業者)と連携し、安定した食事の提供をすることができました。しかし、調理員人員不足は続いているため今後も課題であると思われます。献立内容や味付け、見た目、彩り、食材については、問題が生じた時は委託担当者に繋げ、現地で改善できるものは対応に努めました。

個別対応食として、個々人の身体状況に合った食事を看護師、介護職員、栄養士の話し合いのもと提供しました。血液検査、体重測定等の結果のもと、栄養状態の思わしくなかった方、または食事摂取率が低下されている方には栄養補助食品等で対応し、栄養状態の改善に努めました。便秘の方に対してのオリゴ糖を使用した排便コントロールについても、引き続き多職種で取り組みました。

#### 2. 調査について

入所者の個人別食事摂取調査を毎食介護員、看護師等の協力のもと実施し、問題のある方については多職種と話し合い、改善出来るよう検討しました。

残菜調査については毎食後主食と副食に分けて計量し、記録しました。

給食委員会での意見、日頃からの各部署より意見を参考に、献立改善・変更に努めました。

#### 3. 衛生について

厨房内の清潔は常に心がけ、毎日の清掃、フード清掃、グリーストラップ清掃など努めました。

厨房内の水質検査は朝・夕(就業前と後)に実施し記録しました。

検便については、調理従事者は毎月1回実施し、そのほかの職員については食中毒予防と健康診断をかねて年4回(4・7・10・1月)実施しました。

※施設長・在宅ケアマネージャー・支援・事務職員は4月、10月実施

#### 4. 給食委員会

R4年度は、4月、6月、8月、10月、12月、2月に実施しました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、書面回覧にて行いました。意見等については委託担当者に伝え、調理員とも話し合いをし改善に努めました。

### 3) デイサービスセンター すみれ園

2022年度の実績として、今年度も昨年度同様の年間サービス実施日数は312日で、自然災害や感染症のクラスター等の大きな影響もなく営業する事が出来ました。

しかしながらコロナ感染症の発症により、年間の利用人数には多少の影響があり、延登録人員の定員30名×日数=9,360名(前年度9,360名)に対し、延実利用人員は、8,147名(前年度8,424名)と約300名程減少しました。

利用率は、87.0%(前年度90.0%)で収入面でも減少が目立つ等、影響がありました。

有料老人ホーム入居者についても、毎年多少の入れ替わりはありますが、今年度は後半になり長期入院がきっかけで退居される方が増え、利用人数が確保出来なかった事も利用率低下の大きな原因の一つとなりました。当事業所は、有料老人ホームの方の入居状況により1日の定員が左右される為、今年度も外部より新規利用の相談の全部を受け入れる事が出来ませんでした。特に総合事業対象者の方については後回しになってしまったのが現実です。

1日平均利用者も26.1名(前年度27.0名)と昨年より減少しました。月平均としても679名(前年度702名)と減少です。利用者の年齢は、80代前半から100歳近い方と年齢差に幅があります。

今年度については総合事業対象者の利用は無く、年間通して要介護者の方ばかりでした。その中でも、「介護度1」「介護度2」の方が、大半であり、「介護度3」以上の方については、平均で3~4名程度でした。介護度が重くなると、自宅や有料老人ホームでの生活が難しくなり、同時に通所介護の継続的利用も困難となるのは仕方が無い事だと思います。

最近では介護保険の有効期間も延長され、又認定結果も軽くなる傾向にありますが、実際は利用者様一人一人に掛かる介護量は、介護度に関わらず確実に増えて来ています。

1日の過ごし方としては、まだコロナ禍であった為、昨年同様感染症対策を優先に行いました。特に、レクリエーションやバスハイクについては、大声や換気に注意を払いながら行いましたが、開催回数は少なくなりました。バスハイクも同様回数は極端に少ないのですが、換気が出来る季節に限定し行いました。外出行事については、気分転換が出来る為、利用者様には大変好評でした。

午後のリハビリ体操は、例年通り行い、ほぼ毎日全員が参加されています。引き続き内容を検討し行っていきます。

体操後の時間は、コロナ禍でもあり、静かに行える手工芸が主になりましたが、強制ではなく、自由に過ごして頂く事も取り入れました。

食事提供については、殆ど方が「美味しい」と言って下さりますが、残食が目立つ事も多々ありました。又配膳の際乗せ忘れが目立ち、利用者様へ迷惑を掛けました。食事中に誤嚥される方も多少おられました。見守りを怠らず大きな事に繋がる事はありませんでした。

入浴については、今年度も大きな浴槽を売りにしてPRしましたが、利用者様には大変喜ばれ好評でした。最初は嫌がられた方でも1度入浴すれば、拒否されなくなりました。毎日身体清潔に心掛け、皮膚状態の観察も行いました。浴後は主治医の処方に従い、貼り薬や塗り薬の対応も行いました。入浴は当事業所の最大の売りとして行きたいと思っております。入浴の稼働率が低いのは、限度額が関係しています。

排泄については、定時の声かけを行い、個人の排泄パターンに応じ誘導も行っています。介助が必要な方については、最後まで付き添い、交換等行います。排泄チェック表を用いて記録し、利用者一人一人の排泄パターンの確認も出来ました。

全体では、今年度もコロナ感染症の影響で、年間通して代わり映えしないデイサービスであったと思います。実際外部の利用者様や有料老人ホームの入居者様、又職員等コロナ感染症に感染した為、1日の過ごし方が慎重になるのもやむを得ない状況で、昨年同様、感染対策に追われた日々でした。利用者様については、この数年の感染対策で、マスク着用が定着し、換気や消毒も習慣づいて来たと思います。

今後はコロナ感染症に対する対処法が大きく変わるようですが、現時点で当事業所は幸いにしてクラスターを出していない為、感染対策を継続しつつ、状況を勘案しながら、少しずつ緩和出来たらと思います。

利用者様については、安心して利用して頂けるよう、状況に応じた感染対策を続けながら、出来る限り要望に応じたサービス提供を行います。

職員については、職員から感染症の持ち込みが無いよう、引き続き感染対策を徹底して行います。又個々の能力を伸ばせるよう、昨年度は実施出来なかったWEB研修にも取り組み、利用者様へ統一したサービス提供が行えるよう、学習、教育を行います。虐待や個人情報漏洩等決して無いよう、十分に配慮して行きます。又稼働率向上と収入増も視野に努力します。

令和4年度デイサービスすみれ園 保険外利用一覧

月	介護度	実人数	延人数	利用料	合計
4月	要介護	1人	1人	850円	850円
	要支援	0人	0人	0円	
5月	要介護	1人	1人	850円	850円
	要支援	0人	0人	0円	
6月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
7月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
8月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
9月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
10月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
11月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
12月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
1月	要介護	1人	1人	850円	850円
	要支援	0人	0人	0円	
2月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
3月	要介護	1人	1人	850円	850円
	要支援	0人	0人	0円	
合計	要介護	4人	4人	3,400円	
	要支援	0人	0人	0円	
	総計	4人	4人	3,400円	

## 令和4年度デイサービスセンターすみれ園 事業実施状況

実施月	利用回数	延登録人数	延利用人数	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	実利用者計	利用率	1日平均	延入浴人数	入浴利用率
4月分	26回	780回	697名	0名	0名	0名	13名	17名	4名	0名	0名	34名	89.4%	26.8名	416名	59.7%
5月分	26回	780回	683名	0名	0名	0名	13名	17名	3名	0名	0名	33名	87.6%	26.3名	386名	56.5%
6月分	26回	780回	665名	0名	0名	0名	14名	16名	4名	0名	0名	34名	85.3%	25.6名	388名	58.3%
7月分	26回	810回	723名	0名	0名	0名	14名	14名	4名	1名	1名	34名	89.3%	27.8名	429名	59.3%
8月分	27回	780回	719名	0名	0名	0名	14名	15名	4名	1名	1名	35名	92.2%	26.6名	436名	60.6%
9月分	26回	780回	687名	0名	0名	0名	14名	14名	3名	1名	1名	33名	88.1%	26.4名	396名	57.6%
10月分	26回	780回	687名	0名	0名	0名	14名	14名	3名	0名	0名	31名	88.1%	26.4名	393名	57.2%
11月分	26回	780回	671名	0名	0名	0名	14名	15名	4名	0名	0名	33名	86.0%	25.8名	370名	55.1%
12月分	27回	810回	699名	0名	0名	0名	14名	17名	4名	0名	0名	35名	86.3%	25.9名	404名	57.8%
1月分	25回	750回	659名	0名	0名	0名	15名	17名	5名	0名	0名	37名	87.9%	26.4名	362名	54.9%
2月分	24回	720回	620名	0名	0名	0名	11名	19名	1名	1名	1名	33名	86.1%	25.8名	328名	52.9%
3月分	27回	810回	637名	0名	0名	0名	14名	16名	2名	1名	1名	34名	78.6%	23.6名	364名	57.1%
計	312回	9360回	8147名	0名	0名	0名	164名	191名	41名	5名	5名	406名	-	-	4672名	-
平均	26.0回	780.0回	678.9名	0.0名	0.0名	0.0名	13.7名	15.9名	3.4名	0.4名	0.4名	34名	87.0%	26.1名	389.3名	57.3%

## 6) ケアマネージメントサービスすみれ園

### 1. 認定調査

令和4年度より大字大町地区の認定調査を担当しています。年間の調査件数は、73件(町外の方や中部広域の方を含む)、月平均6件となっています。令和3年度と調査件数はほぼ変化ありません。令和4年度もコロナ禍での認定調査となったため、住宅型有料老人ホームやグループホーム等に入居されている方の調査にご家族が立ち会うことが難しい状況が継続しています。

最近の認定結果は全体的に軽くなる傾向が感じられ、介護度が軽くなることで受けているサービスをこれまでより減らすことになってしまう方もおられます。介護度の軽快は、本来は喜ばしい事ですが実際には不満に繋がりやすいため調査に立ち会われるご家族や施設スタッフへ丁寧に聞き取りを行うよう心掛けています。

4月	5	10月	7
5月	9	11月	7
6月	2	12月	10
7月	6	1月	8
8月	4	2月	3
9月	6	3月	6
合計	73	平均	6.08

### 2. 要介護認定者への支援

居宅サービス計画の作成(ケアマネジメント)にあたっては、利用者の生活状況や生活における課題を把握し、利用者の有する能力を最大限に活用しながら、自立支援を目指しました。サービス利用開始後は、毎月自宅で利用者及び家族と面談し、心身状態の把握やサービスが適切に実施されているか等を把握(モニタリング)し、状況に応じ3ヶ月から半年毎にケアプランの評価及び見直しを行っています。

介護保険の更新や区分変更申請を行った場合は主治医や各サービス提供事業者からの専門的な意見を聴取し、より充実したケアプランとなるよう心掛けています。介護保険の更新や区分変更申請を行った際に、ご本人及びご家族、サービス担当者により開催されるサービス担当者会議については今年度も参加者を最少人数にしたり文書による照会にしたりするなどコロナウイルス感染拡大防止の観点からの対策も行いました。

コロナウイルス感染症対策により、住宅型有料老人ホームへ入居されている方やショートステイ利用中の方とは面会制限のため殆ど面談できず、施設入居後、全くお会いできていない利用者もおられます。また入院し、退院間近の利用者の状態確認が思うように出来ない時もあり、状

状態を把握できないままサービス調整を行う事もありました。

今年度はコロナウイルス感染症の感染拡大があり住宅型有料老人ホームでのクラスター発生や利用者の家庭内感染も多々ありました。家庭内感染の場合は定期的に電話連絡を行い状態把握に努め、電話連絡が取れない利用者には感染症対策を行いながら自宅を訪問し安否確認を行いました。場合によっては保健所へ相談、コロナ療養センターへの入居へ繋げるなどの対応も行いました。また事業所内でも家庭内感染が発生し出勤停止となる職員がおり、事業所開所以来、初めてオンライン業務を行いました。

令和4年度において新規で居宅サービス作成依頼を受けた件数は25件となっています。令和4年度末までに居宅支援を終了した方が26名となっており、内訳として、特別養護老人ホーム入所7名、老人保健施設入所3名、長期入院3名、死亡9名、要支援への軽快3名、その他1名となっています。

令和4年度はケアマネ2名体制でしたが令和5年度はケアマネ1名を新規採用し3名体制となりましたので困難事例についても積極的に受け入れていきたいと思っております。

#### ・居宅サービス計画作成件数

	サービス計画 作成件数		サービス計画 作成件数
4月	69	10月	67
5月	66	11月	71
6月	69	12月	68
7月	69	1月	67
8月	69	2月	67
9月	67	3月	63
合計	812	平均	67.6

## 7) 在宅介護支援センターすみれ園

### 1. 配食サービス調査

大町町からの委託を受け、町内の65歳以上の配食サービスを希望する独居高齢者や高齢者世帯の方を訪問し、実態把握の調査を行っています。令和4年度は、大字大町地区の調査を担当しました。年間の調査件数は9件と多くはありません。

町の配食サービスは独居高齢者や高齢者世帯しか利用できないことから、ワタミのタクシヨクや生協のお弁当などを利用されている高齢者も少なくないようです。

#### ・配食サービス調査

	調査件数		調査件数
4月	4	10月	0
5月	1	11月	2
6月	0	12月	0
7月	0	1月	0
8月	0	2月	0
9月	0	3月	3
合計	9	平均	0.75

### 2. 福祉車両及び車椅子貸与

要介護高齢者の外出支援、在宅生活維持の支援として、町内在住の要介護者を対象に車椅子に乗ったまま乗車できる福祉車両及び車椅子の貸し出しを行っています。

コロナ渦で定期受診や外出を控えられるようになったことや往診をして頂く利用者が増えたことから車輛貸し出しの件数は多くはありません。

#### ・福祉車両及び車椅子貸出件数(のべ人数)

	福祉車両	車椅子		福祉車両	車椅子
4月	1	0	10月	1	0
5月	3	0	11月	4	0
6月	2	0	12月	0	0
7月	0	0	1月	0	0
8月	0	0	2月	0	0
9月	0	0	3月	1	0
合計	12	0	月平均	1	0

#### 4) ケアハウスすみれ園

令和4年度は、退居者数1名、入居者数2名で入居者の平均年齢は83.5歳であり前年度とほぼ変わりありませんが、ここ数年で男性入居者も増え今年度は全体の4割が男性入居者でした。

最高年齢者は90歳台半ばから一番若い方で60歳台前半と年齢差が幅広いですが、大きな病気や怪我がなく入居者のほとんどが比較的安定した生活を送ることが出来ました。その為、今年度は居室稼働率も高くなりました。

また、心身の状態観察、健康管理に努め家族、主治医、担当ケアマネージャーなど関係機関と密な連携に努めました。

令和4年度中の入院は、15名中延べ2名。ショートステイ利用が2名。入院された方に関しては、入院期間が短かった為、退院後は以前のような生活に戻ることが出来ました。

退居された方の理由としては、介助が必要となられケアハウスでの生活が難しくなった為、特老のショートステイ(ロング)を利用されることとなりました。

今年度もコロナ禍での外出規制により居室で過ごす時間が増え、ADL や認知機能低下を防止する為、いきいき100歳体操や園内ボランティアとして清掃や洗濯物畳み雑巾作り等を実施しました。また生活の中で楽しみを持つためセレクト弁当の日を設けたりと満足いただけるような取り組みを行いました。

#### 〈感染症対策〉

新型コロナ感染症については昨年に引き続き、今年度も全国的に感染者数が拡大しました。近隣の高齢者施設でもクラスターが発生し、施設内に「持ち込まない」ためにケアハウスでも普段からマスク着用、手指消毒、換気の徹底、面会や外出制限、毎朝体温チェック等の予防対策を行いました。コロナワクチン接種は希望される全入居者に5回目まで実施しており、また病院受診に関しても、担当医と連携し定期受診の間隔を伸ばすことや職員による薬受けを実施することで感染リスクを減らすよう対応を行いました。

しかしながら、令和4年7月に1名、令和5年2月に4名、入居者より感染者が出ました。2回目感染者が出た際は収束までひと月かかりましたが、罹患した入居者に関しては、一定期間の居室療養を行うとともに、その他の入居者も密を避けるため食堂での食事を中止し各居室まで配膳を行うことで感染拡大に努めました。幸いな事に感染した方全員が軽症だった為、療養後は後遺症等も見られず感染前の生活に戻ることが出来ました。

また面会に関しては、コロナ禍でも安心してご家族との面会が出来る環境を整える為、県の面会支援事業補助金を活用して面会ブース「あえる一む」を購入し、玄関ホールへ設置しました。

入居者状況(令和5年3月31日現在)

男性	5名
女性	9名
計	14名

男女別年齢構成

年齢	男性	女性	計
60～64	1	0	1
65～69	0	0	0
70～74	1	0	1
75～79	2	1	3
80～84	0	1	1
85～89	1	3	4
90歳以上	0	4	4
計	5	9	14

入居者の介護度

自立:3名

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
3	4	3	1	0	0	0

介護サービス利用人数(複数利用あり)

訪問介護	デイサービス	デイケア	福祉用具レンタル	合計
7	2	1	8	18

居室稼働率

・退居は原則として月末

・年間を通しての稼働率:96.7%

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
入居者数	13	14	14	15	15	15	15	15	15	15	14	14
新入居者数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退居者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
稼働率	86.6	93.3	93.3	100	100	100	100	100	100	100	93.3	93.3

年間行事については、定例のお茶会、誕生会を行い楽しんでいただき入居者間の親睦を深めることができました。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染の流行により運動会、秋祭り等の行事が中止となり実施できませんでした。バスハイクに関しては感染対策を行い、日用品の買い物の他、季節の花見学を実施でき気分転換を図ることが出来ました。

#### 実施行事内容

	行事内容
4月	お茶会・セレクト弁当
5月	お茶会・誕生会・セレクト弁当・訪問カット
6月	お茶会・セレクト弁当
7月	お茶会・セレクト弁当
8月	お茶会・セレクト弁当
9月	お茶会・誕生会・敬老会・水質検査(レジオネラ)・セレクト弁当
10月	お茶会・バスハイク(鹿島市祐徳神社)
11月	お茶会・誕生会・バスハイク(多久聖廟、お買い物)・セレクト弁当
12月	お茶会・クリスマス会・セレクト弁当・訪問カット・大掃除
1月	お茶会・誕生会・お屠蘇会・新年会
2月	セレクト弁当
3月	誕生会・水質検査(レジオネラ)・バスハイク(花見)セレクト弁当

お茶会(1回/月) 誕生会(1回/2ヶ月) セレクト弁当(1回/月)  
バスハイク(1回/月)※感染状況により実施 水質検査(2回/年)

新型コロナ感染症の位置づけが5類に見直されますが、今後も施設内に「持ち込まない」「広めない」よう基本的な感染対策を行いながら、体調、精神面の変化に留意し健康で安全な生活を送っていただけるように努めるとともに、個々の支援の必要性の見極め、家族、関係機関との細かな連携に努めます。

また、引き続きケアハウスの入居待機者、入居者を得るために関係機関と連携を図り、広報に努めていきます。

## 7) 有料老人ホームすみれ園

令和4年度の実績として、実入居者は239名(前年度233名)で月平均入居者数19.91人(前年度19.41人)で延入居者数は6,882名(前年度6630名)と月平均では、573.5名(前年度552.5名)とやや増加に転じました。

今年度の実入院者は5名で、今年度は同じ方が年に何度か入退院を繰り返したり、ある方については3ヶ月間に渡り入院されました。その中でも退院後、有料老人ホームへ復帰されたのは1名のみで、後の方は退院後、有料老人ホームでの日常生活が困難な状態であった為、特養のショートステイや、当法人以外の他の施設を利用される事となりました。当有料老人ホームは、夜勤者が一人と言う事もあり、退院後介護量が増える方や常時見守りが必要な方については、復帰が難しいようです。

令和4年度の入居者の平均年齢が89.8歳であり、昨年度と比べるとやや若くなっているようです。入居者の年齢は81歳～99歳と年齢層にかなりの幅がありました。中には開所当時より長年入居され年齢を重ねておられる方もおられますが、近年は短期間での入れ替わりも多くなって来ています。

入居者ほぼ全員の方が、多くの疾患を抱えておられ、主に心疾患、骨粗鬆症、認知症、呼吸器疾患、腎疾患等が多いようです。前年度までは、夜間に救急搬送するような事例は一つもありませんでしたが、今年度は1件、夜間急変して救急搬送で入院になられた方もおられます。幸い死亡される事はありませんでしたが、有料老人ホーム復帰は難しく、そのまま退居となりました。

今後も十分にあり得る事だと思われる為、連絡網をしっかりと整え、急変へ備えます。

### <感染症予防>

コロナ感染症については、今年度も全国的に感染者の拡大が起こり、当有料老人ホームでも、例外ではありませんでした。毎日マスク着用や消毒及び面会制限など行って来たにも関わらず、入居者1名に感染者が出てしまいました。又職員の感染もあり、業務の対応に迫られました。入居者については幸い1名で留まり、クラスターとはならず済みましたが、一時期は緊張が走りました。この数年に渡るコロナ禍で、入居者様については、マスク着用が定着し、手指消毒へもしっかり理解を得る事が出来ました。

来年度、国は感染対策も緩む方向性で発信されていますが、高齢者施設では、今後も不安が尽きないと思います。今後も感染対策はしっかり行って行きます。

面会や外出制限については、家族様へご不満を与えたと思いますが、今後は少しずつ緩和して行きます。

### <事故予防>

高齢化と介護度の重度化により、年々事故は増えて来ています。特に転倒事故については、骨折や怪我に関わらず、確実に増えています。有料老人ホームで安心して生活して頂くには、少しでも事故を防いで行かなければなりません。その為には、付き添い、見守りを重視し、誤嚥や転倒事故を防いで行きます。今年度はセンサーマットを1台増やした事で、早めの対応が出来、転倒事故を少なくする事が出来ました。今後も巡回を怠らず、見守りを強化する事で、今以上に転倒事故を防いで行きます。誤嚥については、今年度も大きな事故に繋がる事はありませんでしたが、やはり、水分や固形物で少し咽る方はおられました。その都度、食事形態の見直しやトロミの有無や度合い等検討しました。今後も大きな課題の一つと思われます。



## 令和4年度退所状況

7月	2名	要介護1 要介護2
8月	1名	要介護3
12月	2名	要介護1 要介護5
1月	1名	要介護3
2月	1名	要介護2

退所者数は7名、平均入所月数期間は31.7ヵ月だった

〈退所理由〉

- ・身心の機能の低下により、特老や他施設への入所となった。(3名)
- ・専門的な病院での治療が必要となり退所となった(3名)
- ・本人と家族の意向で在宅での独居生活を希望された。(1名)